

紀南のみち・まちづくり

NPO法人 花つぼみ 理事長 こもり かずあき 古守 一晶

○ 国土交通省 紀南河川国道事務所 建設専門官 河合 良治

1. 地域づくり方針・目的

住みよく、快適で、生き生きとしたよりよい地域をつくっていくためには地域の人々が、地域に誇りを持ち主体となって、行政と一緒に「まちづくり」「地域づくり」を行うことが重要です。

2. 取り組み内容

直轄国道においては、NPO 団体や地元自治会等と道路管理者、市町村と協定を締結し、清掃、緑化等を協働で行う「ボランティア・サポート・プログラム」を進めており、紀南河川国道事務所においても6団体（平成17年11月現在）と協定を締結しています。

平成17年4月には、地域の活動団体が主体となって「未知普請近畿大会 in 紀南」を開催しました。

今後は、「ボランティア・サポート」「未知普請」活動を通じて、産学官民協働のネットワークが強化されたことを受け、地域づくりの新しい取り組みとなる「シーニックバイウェイ」を進めて行きます。

3. 苦労点・達成度等

地道な活動である「ボランティアサポート」、まさに手作りの大会となった「未知普請近畿大会 in 紀南」など協働の取り組みを続ける中で、地域の活動団体（民間）と紀南河川国道事務所、県、市町村（行政）の連携が強化されました。

さらに持続的に協働、連携を行っていくためには、日頃からお互いに顔を会わせる「日常的な対話」が必要だと考えています。

4. 効果・反響等

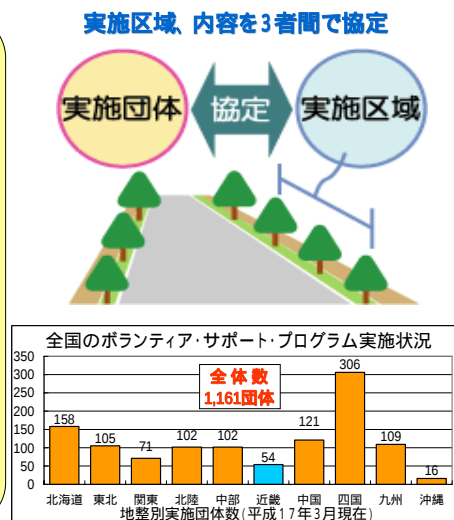
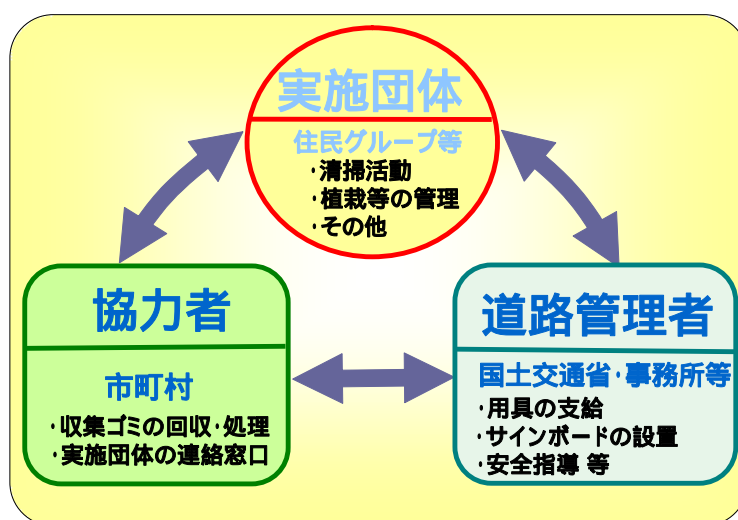
「未知普請近畿大会 in 紀南」では、予想を上回る延べ約1070名の参加があり、全体会議コーディネーターを務めて頂いた和歌山大学小田章学長は、「こういった対話の場を設けることが、官、民の連携になるし、産、学が加わることで一体になったまちづくりが出来る。」と総括されました。

5. 今後の課題・展開等

「ボランティアサポート」「未知普請」の協働の取り組みを継続しながら、新たに紀南地方にある美しい海、清らかな川、深い緑の山、熊野古道などどの豊かで個性的な景観、歴史、文化、自然など地域の魅力を道でつなぎながら、美しい景観づくり、魅力ある地域づくりを目指す「シーニックバイウェイ」の取り組みを紀南地方全域を対象エリアと考え、地域の活動団体のみなさんに呼びかけを行っていきます。



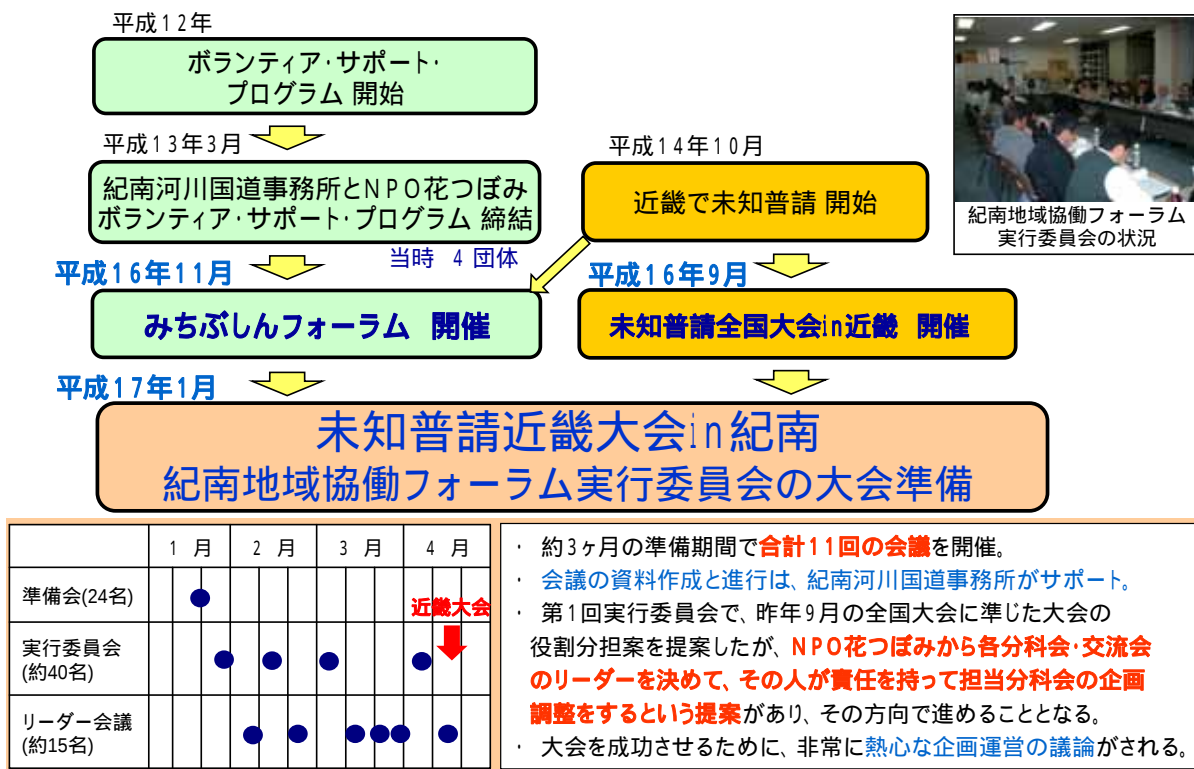
ボランティア・サポート・プログラム



紀南のボランティア・サポート・プログラム団体



未知普請近畿大会in紀南 開催までの流れ



未知普請近畿大会in紀南の開催

開催趣旨

- 近畿各地の活動報告。
- 今後あるべき「未知普請」の方向性を討論。
- 交流を深めながら、未知普請活動を活発に。
- 「未知普請全国大会in近畿」、「みちぶしんフォーラム」の継続、発展。



開会式（挨拶）古守会長



オープニングセレモニー



全体会議（分科会報告）

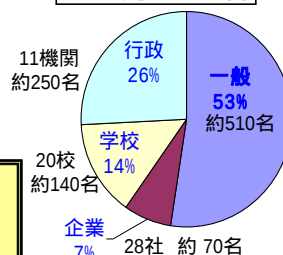


全体会議
4月16日 約850名



オプションツアー
4月17日 約220名

延べ約1070名



大会及び「紀南地域協働フォーラム実行委員会」を通じて
地域の産学官民協働ネットワークが強化

平成16年7月に世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」をはじめ、**自然、歴史、文化、産業など、豊かな景観と資源が豊富。**

- ・1991年にアメリカで始まった取り組みで、地域や国の財産と考えられる場所や建物などが存在する道路沿線での景観や自然等を、保全・整備していくこと。
- ・民間(住民、NPO等)を中心に、行政が支援するところに特徴がある。
- ・道路沿道の景観が良くなるだけでなく、関連地域活動の活発化で地域ぐるみの観光、活性化などの幅広い効果を期待。



シーニックバイウェイ推進の鍵となる、様々な地域づくりの活動団体がある。

まちづくり・村おこしグループ



ボランティア・サポート・プログラム実施団体、
「みちぶしん」フォーラム参加団体、
大辺路ラジオウォーク時：まちづくり等グループゲストを掲載

シーニックバイウェイに関するシンポジウム

～世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」にふさわしいみちのありかた～

- 日時:平成17年6月18日(土)
13時30分～16時00分
- 場所:田辺市山村開発センター(田辺市本宮町)
- 主催:シーニックバイウェイに関するシンポジウム実行委員会
(和歌山県県土整備部、紀南河川国道事務所、和歌山河川国道事務所)
- 参加者:約250名(一般:約110名、行政:約140名)



パネルディスカッションの状況

- 基調講演:
「みんなでつくる美しいみちとまち
～シーニックバイウェイ制度の導入～」
石田東生 (筑波大学 システム情報工学研究科教授)
- パネルディスカッション:
「紀伊半島におけるシーニックバイウェイの可能性」
コーディネーター
古田 皓 (テレビ和歌山報道局長)
パネリスト
石田 東生 (筑波大学 システム情報工学研究科教授)
小野田 真弓 (熊野古道を世界遺産に登録する
プロジェクト準備会 運営委員代表)
泉 正徳 (和歌山県本宮町 前町長)
和泉 晶裕 (北海道開発局 道路調査官)
黒谷 努 (近畿地方整備局 紀南河川国道事務所長)

■パネルディスカッションでの石田教授のコメント概要

- ・熊野には、圧倒される歴史や精神性、力強く細やかな自然と文化、海・山・川があり、ここに暮らす人々の力をどうつなぎ、どんな結晶にするかが課題。
- ・可能性はとても高い。多くの団体が日常活動の延長線上で連携することが大事。方向性はみんなで考え、型にはまらず挑戦を。

今後の「紀南のみち・まちづくり」について

●紀南の未知普請・シーニックバイウェイ

- ・「未知普請近畿大会in紀南」の開催を通じて、子供からお年寄りまで産学官民協働のネットワークが広がり、結びつきも強くなったことにより、民が中心となり行政等がサポートする新しい地域づくりの形が見えてきた。
- ・美しい景観を見ながら、地域の歴史、文化、自然などに触れることが出来、新たな観光スタイルにより地域を活気あるものとする「シーニックバイウェイ」について、紀南地域における可能性は十分にあり、現在、地域の活動団体の皆さんに呼びかけを行っています。

「シーニックバイウェイ」の取組を進める為に必要なこと

1. 地域のリーダーを見つけること。
2. 行政と民間、民間と民間をつなぐコーディネート力。
3. 地域のイメージをみんなで作る。
4. 行政が地域と同じ目線で対応。



平成17年12月1日 南紀州新聞 9面